

## 大きな学校でないとだめなのですか？

～複式学級・小規模校だからこそできる教育～

兵庫県加東市公立小学校元教諭 岸本 清明

### はじめに

最近学校(教員)の管理強化が急速に進み、教職は長時間過密労働が当たり前になってきた。そして、自由な実践のできる基盤は激減した。

それでも管理職や地域に恵まれたときには、おもしろい実践ができた。その一番は「へき地校」鴨川小に勤務していた時代(2003年度～09年度)で、私は51才～57才の油の乗り切ったときだった。しかも、校区がしっかりした地域だった。その折に、「小規模校にはものすごい魅力がある」ことに気づかされた。

### 1 鴨川小学校とその根ざす地域

加東市立鴨川小は兵庫県の南東部、明石市から北へ30kmに位置し、中国山地の低山の谷間にある3集落を校区にしている。古からの京街道である丹波道の宿場村だった上鴨川、炭焼きと農業とを生業にしてきた下鴨川、西国霊場25番札所「播磨清水寺」の門前村として栄えた平木の3集落があり、260世帯657人(2018年12月末現在)が暮らしている。

かつては中学校が存立しえるほどの人口があった。しかし、隣町に鉄道が走り車社会も到来し、丹波道を行き交う人は激減した。そのうえ、炭焼きも途絶え西国巡礼の人も減った。さらに地場産業も無く若い人が都市に流出し、高齢化と過疎化が深刻になった。

一方、鴨川の自然環境は豊かである。山々の木々が四季折々の変化を見せ、キジやハッチョウトンボなど多種多様の生物を育む。山紫水明で、鴨川本流にアユやサワガニが生息する。ところが、最近イノシシやシカ、アライグマが出没し、農業に悪影響を与えている。

鴨川小学校には132名も在籍していた年(1953)があったが、年々減少して私の異動してきた2003年には50名を切った。それが2010年には20名近くにまで減り、完全複式学級の3学級となっている。

鴨川地区は農村共同体の良さを今なお残し、お年寄りの多い地域なので人情も厚く、学校には協力的である。運動会は鴨川地区と合同で開催し、6年生を送る会には地域の方も多数見に来られる。

### 2 鴨川小学校も廃校にする動き

その鴨川小など市内9小学校と3中学校を全て廃校にし、旧町ごとに小中一貫校を建設する計画(人口4万の加東市に市立小中一貫校が3校だけになる)を、加東市が2014年12月に突如発表した。鴨川地区や隣接の東条地区で激しい反対の声が上がったが、加東市全体の流れを止めるには至らず、東条の小中一貫校は2020年に、鴨川小など旧社町の5小学校は2023年度末に閉校予定である。しかも、鴨川保育園までも11km離れた隣村の「認定こども園」に、同時期に統合される計画である。

鴨川地区では、祖父母たちが鴨川小の存続を願い自分の息子たちを呼び戻す取り組みを始め、その効果の上がり始めた時にこの仕打ちである。その打撃はいかばかりであろうか。

### 3 地域に根ざす教育

私は「ほんものの教育」をしたいと、鴨川小学校で下記のような「地域を教材にし、地域の人や専門家の力を借りて子どもと学びを創る」ことに心を砕いてきた。

#### 03年度 第5・6学年 ふるさと学習「住吉神社と清水寺、鴨川の歴史に見るわが鴨川」

自分たちのふるさとのシンボルである住吉神社(国指定重要文化財)と神事舞(国指定重要無形民俗文化財)、播州清水寺(西国第25番札所)、丹波道の宿場町だった上鴨川を調査し、たくさんの教員が来る学校教育研究発表会でポスター発表をした。

「コンビニも無い自然だけの村」という6年生(8人)の当初の評価が、「歴史のある村だった」に変わった。

#### 04年度 第6学年 総合学習「鳥の詩」鴨川の野鳥調査から

鴨川にはたくさんの種類の野鳥が多数棲息している。それは、里山や川、水田や集落、えさ場と隠れ家がたくさんあるからだ。6年生(10人)は「鴨川にはたくさんの鳥たちが暮らせる豊かな自然があるのだ」と鴨川を再評価した。

#### 05年度 第3学年社会科「鴨川のひみつを探る」

自分たちが暮らす3つの村の地形図に、山と川、水田と家に色を塗り分けた。すると、道の周囲に家が並んでいる上鴨川地区、山の裾野に家が散在している平木地区、水田の所々に家が散在している下鴨川地区と、大きな違いがあった。その違いを確かめに現地を見て歩いたり、村の人から話を聞いたりした。その結果、上鴨川は丹波道の宿場村、平木は播州清水寺に関係している人たちがその寺のある山の斜面に村をつくったこと、下鴨川は農業と炭焼きで暮らしを立てていたことを、5人の3年生が見出した。

#### 06年度 第2学年生活科「海遊館に行ってきたよ」

2年生が路線バスとJR、地下鉄を乗り継いで大阪にある海遊館まで行った。ふだん子どもたちがどこかに出かける際には自家用車に乗せてもらうので、子どもたちの路線バスやJRの乗車体験はほとんど無い。そこで、バスの営業所に出かけ、バスの乗り方を教えてもらった。ついでにバスのバックミラーやつり革といった安全対策も教えてもらった。JRの券売機の仕組みも教えた。

そして、5人の2年生が3人の一年生を連れて海遊館まで大冒険を始めた。JRの電車には鴨川では見られないほどの人が乗り込んできて超満員となった。せっかく自販機で買った切符を失う子もいたが、無事に海遊館にたどり着いた。そこでは、巨大なジンベイザメや、ものすごい速さで泳ぐペンギンに圧倒された。山の子が海辺でお弁当を食べ、たくさんの思い出を持って帰路についた。その夜家で1時間もマシンガンのように家族に話し続けた子もいたという。

鴨川は確かにへき地にあるが、バスと列車を乗り継げば日本国中どこでも、自分の行きたい所へ行けることも、子どもたちが体得した旅でもあった。

#### 09年度 ①第5・6学年総合学習「魚たちと見た鴨川の川」

清流の鴨川の本流や支流でも、魚が急激にいなくなりつつある。「おじいさんの子ども頃のいた魚」、「お父さんの子ども頃のいた魚」のアンケート調査をし、ここ60年間で魚種と量が半減していることを知った。その原因を地域の人や専門家から聞くと、河川改修や圃場整備事業、井堰やダムだった。それが魚の移動を困難にしたり、隠れ家を無くしたりしているのだ。この学びを人形劇にし、地域の人にも来る6年生を送る会で上演し、多くの人に知らせた。(5年生8人6年生2人の複式学級)

## 全校生食育 「感謝の気持ちを伝え、思い出をつくる食と農」

～自分たちで栽培した作物を調理し、地域の人たちを招いて食べる～

全校生24名（1・2年生8人、3・4年生6人、5・6年生10人の完全複式学級）が栽培園でトマトやナス、キュウリやカボチャなどの栽培をしている。それを使って5・6年生10名が、社高  
校生活科学科の生徒の支援を受け80個のお弁当を作り、登下校や行事などで日頃お世話に  
なっている人や地域の一人暮らしのお年寄り50人を招いて食事会を持った。献立はミート  
ローフと漬け物、野菜と鶏肉の串焼き、ネギとトウモロコシを入れた卵焼きである。ご飯  
は高校生が黒豆を入れて炊き、酢をかけて紫色に染めたものである。それを3・4年生が鴨  
川小学校の校章である「桜」の型に入れ、1食ずつ固めて重箱に詰めた。

会食の際には、1・2年生が「大きなかぶ」を朗読し、3・4年生は手品をし、5・6年生はリ  
コーダー合奏を披露して、全校で感謝の気持ちを伝えた。

## 4 小規模校での教育の魅力

小規模校での教育は魅力的である。子どもたちの間近にいるので、その気持ちが感じ取  
られ愛おしく思う。それで、この子たちを本当に伸ばす教育は何かと考え、その取り組み  
を進めることができるからである。

- 相互信頼に基づく温かなクラス、学校づくりをしていける
- 全員発表、参加型の授業づくりで深い理解を図れる
- 地域を教材に、地域で見つけた課題を地域の人と解決していく授業ができる
- 自由な教育課程づくりで、子どもたちを伸ばしていける
  - ・子どもが育つ行事を子どもたちの手で作ることができる
  - ・地域の人といっしょに運動会や三世代交流会などの行事ができる
  - ・教員のアイデアで独特の単元が組める

## 5 地域が教員と共に子どもを育てる小規模校

小規模校では、子どもたちや地域の人といっしょに学習や行事を創っていくことが可能  
で、「地域の学校」にすることができる。

### 終わりに

「子どもは競争させないとダメだ」とか、「切磋琢磨させるべし」といった乱暴な言説  
が、小規模校を貶める。教員の中にも「小規模校の子どもは学力が低い」と言う人がいる。  
それは、その教員が「できる」子を頼りにして、その子たちに正解を言わせて授業を組み  
立てているからだ。教育行政関係者はけっして公表しないが、「学力テストの平均点は、  
大規模校よりも小規模校の方ががぜん高い」のである。学力テストの上位を、東京や大阪  
ではなく、秋田や石川、福井が上位を占めていることから分かる。

今まで「個に応じた」とか「一人一人を大切に」というスローガンが何度も流布された  
が、大規模校においてその実現はたいへん困難である。小規模校でこそ比較的容易に実現  
できると考える。少なくとも小学校段階では、「個に応じない限り本当の教育は実現され  
ない」のではないだろうか。それが小規模校を体験しての私の実感である。

小規模校を廃校にすることは、その地に生まれ育った子どもの「その地で育つ教育」を  
放棄させることであり、村人の夢と希望を奪い地域の未来を閉ざすことにつながる。教員  
には、少人数の学級、学校経営を通して「子どもに寄り添い、子どもを芯から育てる本来  
の教育を創っていく」チャンス奪い、教員として大事な成長の機会を奪うものともなる。

## 1. 最良の教育の外的条件

- ① 自然に恵まれているなど学校が位置している環境が良いこと
- ② 教育の場である学校などの諸設備が整っていること
- ③ 有能でかつ教育に意義と熱意を持っている教師がいること
- ④ 教師一人あたりの児童生徒の数が少ないこと
- ⑤ 教育の場が外部に対して解放されており、閉塞感がないこと
- ⑥ 十分な予算措置をして、実践を支える教育行政機関の協力があること
- ⑦ 保護者はじめ地域住民の協力と支援があること

## 2. 最良の教育の内的条件

- ① 子ども一人一人の個性や能力に応じた教育を実施していること
- ② 子ども一人一人の興味や関心を大切にしていること
- ③ 子ども一人一人の学ぶペースや進度を大事にしていること
- ④ 子ども一人一人の意志や都合を尊重していること
- ⑤ 子ども一人一人の能力や可能性を大事にしていること
- ⑥ 学ぶ子が自由に伸び伸びと学べること
- ⑦ 学ぶ子一人一人が自分が大事にされていると実感できていること
- ⑧ 学ぶ子が教師と一緒に学べることに絶対的な信頼を置いていること
- ⑨ 学ぶ子が学ぶことによって自信と自尊心を高めていること
- ⑩ 学ぶ子が自分の将来に明るい希望を持っていること

門脇厚司著「社会力の時代へ」—互恵的共働社会の再現に向けて  
富山房インターナショナル 2018 pp119. 121

### 産業社会と近代公教育制度の役割

産業社会とは、不可能を可能にする機械なり製品なりサービスなりをどんどんつくりそれらを商品として売ることによって人々の生活の利便性や快適性を高め、その見返りとして莫大な利益を上げることを目的にして実現した社会。

今学校を中心に行われている教育は、近代公教育制度と言うが、その制度はその国に生まれた全ての子どもに一斉に教育を受けさせ、そこで競争させ、産業の発展に役立つ有能な人材を見つけ出すことを主たる目的にしてつくられた。 同前掲書 p12

社会関係資本指数において高得点を取っている州は、すなわち住民が他の人々を信頼し、組織に参加し、ボランティアをし、投票を行い、友人と社交しているような州は、子どもたちも元気な州である。そこでは赤ちゃんは健康に生まれ、ティーンエイジャーが親になったり、学校を中退したり、凶悪な犯罪を犯したり、自殺や他殺で若くしての死を迎えたりはしていない。 同前掲書p22

文科省は、学校教育で「社会を生き抜く力」を育てることが大事と言っているが、ダメ社会でも自分だけは生き抜くのだから、他の人を蹴落とし、踏みつけても自分は生き延びるのだというのではなく、教育はダメ社会をより良く変えていく力である社会力を育てることを目的にしなければならないということになるだろう。 同前掲書pp29. 30